

第2回 理事会

日 時：令和5年5月24日(水)13:00~16:20

場 所：学会事務局(Web会議併用)

出席者：長田会長(議長)、清水副会長、北田副会長、
末永常務理事、池見、稲垣、小俣、笠、佐々木、
長谷川(淳)、長谷川(信)、船山、升元、村上、
和田各理事、野村、緒方各監事

欠席者：太田、大谷、大津、竹村、徳永、西山、林、平野、
三田村、三好各理事
(理事25名中15名出席(過半数)により理事会は成立)

陪席者：熊谷(事務局)

議事内容：

1. 前回議事録の確認

- ・令和5年4月24日開催の令和5年度第1回理事会の議事録案について承認した。

2. 審議事項

1) 会員状況の確認

- ・事務局長より説明があり、審議の結果、正会員13名、学生会員3名の入会を承認した。
- ・5月24日時点において、正会員1,812名、学生会員48名、名誉会員65名となり、総数は1,926名であることを確認した。支部活動から新たに入会する事例があり、良い傾向であるとのコメントがあった。

2) 委員の新任について

- ・常務理事より説明があり、審議の結果、研究企画委員会の1名の新任、土木地質研究部会の3名の新任の合計4名の新任について承認した。
- ・土木地質研究部会の3名の新任は交代等ではなく、マンパワーの増強を図り部会活動をさらに充実させるための増員であるとの説明があった。

3) 令和5年度総会資料について

- ・常務理事より説明があり、審議の結果、総会資料案を承認した。
- ・修正点があれば5月末までに常務理事に伝えることとなった。
- ・常務理事より、同日実施された事業報告の監査において、定時社員総会資料の簡素化と一般への公開、ならびに委員会等の会議の議事録のフォーマットを統一するよう検討要請があったことが報告された。
- ・2022年度の会費が納入されていない永年会員表彰候補者については、郵送にて事情を確認することとなった。また、会費が納入された場合、来年度の永年会員表彰の候補として対応することとなった。

4) 第3回日本応用地質学会表彰について

- ・常務理事より説明があり、審議の結果、山口大学理学部地球圏システム科学科を日本応用地質学会表彰とすることを承認した。

5) 新型コロナウイルス感染症拡大防止ガイドラインの廃止について

- ・常務理事より説明があり、審議の結果、新型コロナウイルス感染症拡大防止ガイドラインを運用停止することとした。
- ・今後も新型コロナウイルス感染症が再度拡大する可能性があることや、新たな感染症が2類相当の扱いになった場合に参照する可能性があることから、ガイドラインを廃止せず、運用停止とすることとなった。

6) 研究発表会特別セッションの海外招待講演者への旅費の支給について

- ・担当理事より説明があり、審議の結果、謝金及び旅費規程に則り旅費を支給することについて承認した。
- ・謝金の支給の有無については、今後国際委員会で検討することとなった。

7) その他

- ・笠理事より、委員会の委員への交通費の支給に関して問題提起があった。現行の謝金及び旅費規程では、委員会等に参加する委員への旅費は原則支給しないこととなっているものの、所属組織から旅費が拠出できない場合には対応が必要になることから、今後謝金及び旅費規程の改定を検討することとなった。

3. 本部からの報告事項

1) 令和5年度研究発表会について

- ・担当理事より説明があり、研究発表会の会告案について確認された。
- ・今回特別講演を依頼しており、ポスターも展示予定である秋田大学には後援頂いた方が良いとの意見が出され、後援依頼すべく、調整することとなった。
- ・若手交流会に参加する非会員・学生非会員で、続けて研究発表会に参加する方は参加費を無料にすることとなった。

2) 令和5年度フォトコンテストについて

- ・担当理事より説明があり、今年度のフォトコンテストの実施概要について確認された。

3) 「関東大震災100年を迎えた現在の日本応用地質学会の取組み」の寄稿について

- ・常務理事より説明があり、寄稿文の内容が確認された。

4) 全地連「創立60周年記念誌」への寄稿について

- ・常務理事より説明があり、会長により寄稿文案が作成され、次回理事会で内容を確認することとなった。

5) 技術士会応用理学6月度講演会について

- ・稲垣理事より説明があり、6月20日に会長が講演することが紹介された。

6) 日本地球惑星科学連合「学協会インフォメーション

コーナー」へのパンフレットの設置について

- ・常務理事より説明があり、幕張メッセ国際会議場にて学会パンフレットが設置されたことが確認された。
- ・パンフレットの刷新について、広報・情報委員会に検討を要請することとなった。

7)防災学術連携体シンポジウム・企画について

- ・常務理事より説明があり、防災学術連携体において今後開催されるシンポジウムについて確認された。

8)他学協会からの依頼

- ・常務理事より、本学会発行出版物からの転載依頼、「International Obsidian Conference Engaru 2023」のプログラムブックへの本学会ロゴマークの使用許可依頼、栗駒山麓ジオパーク推進協議会より「平成20年岩手・宮城内陸地震15年震災復興祈念シンポジウム」への後援依頼について、それぞれ総務委員会で承認されたことが報告された。また、学生のヒマラヤ野外実習プロジェクト「ヒマラヤ造山帯大横断2023」発行の紹介と第12回実習ツアー参加者募集の案内について、報告された。

9)ダイバーシティ推進委員会の副委員長、幹事について

- ・担当理事より説明があり、ダイバーシティ推進委員会の副委員長、幹事について確認がなされた。

4. 各委員会・支部・研究部会・小委員会からの報告事項

1)総務委員会

- ・5月23日開催の委員会議事録案が提出された。
- ・常務理事より、現在の検討事項として、著作権に関する規程の制定と定時社員総会・意見交換会のシナリオが挙げられた。

2)国際委員会

- ・5月19日開催の委員会議事録が提出された。
- ・担当理事より、現在の検討事項として、IAEG XIV Congress 2023、第14回ARCなどがあることが紹介された。また、IAEGとARCへの日本からの参加者数は、前者が十数人程度、後者は二十数人程度であることが紹介された。

3)研究企画委員会

- ・5月17日開催の委員会議事録案が提出された。
- ・担当理事より、今年度の先端技術ワークショップはWeb形式を基本とするものの、講師の方は会場に来場頂くことも検討していること、テーマとしては当初検討したDXは大きな進展が見られず、地震関連のものとなる予定であることが紹介された。

4)ダイバーシティ推進委員会

- ・5月18日開催の委員会議事録案が提出された。
- ・担当理事より、ダイバーシティ&インクルージョ

ンがテーマとなっているシンポジウムへの参加と所属組織への広報の要請があった。また、現在の検討事項として、キャリアデザインセミナーとアースサロンがあることが報告された。

5)東北支部

- ・令和5年度東北支部報告が提出された。
- ・担当理事より、5月19日開催の技術講習会(「土砂災害の疑問55」勉強会)はアンケートでおおむね好評であったことが報告された。